

経営比較分析表（令和元年度決算）

岡山県 里庄町

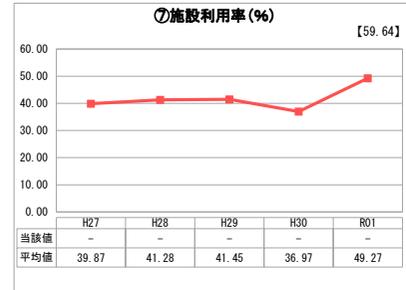
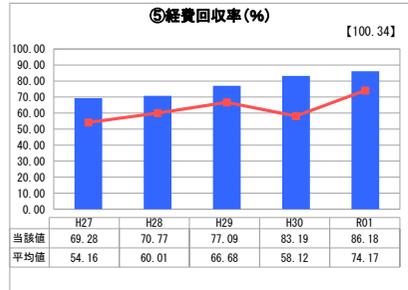
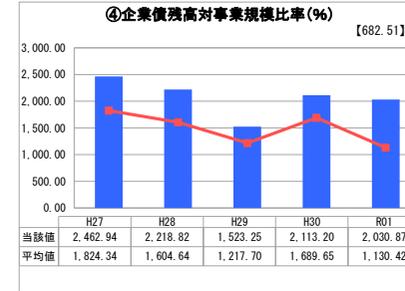
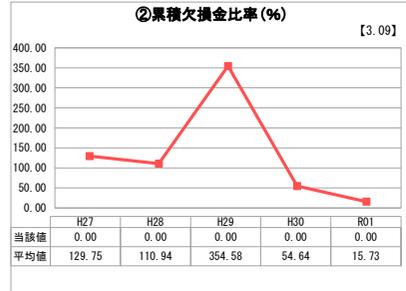
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	52.80	65.48	102.21	3,300

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,205	12.23	916.19
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
7,312	3.18	2,299.37

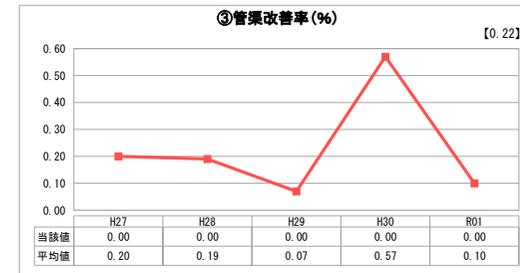
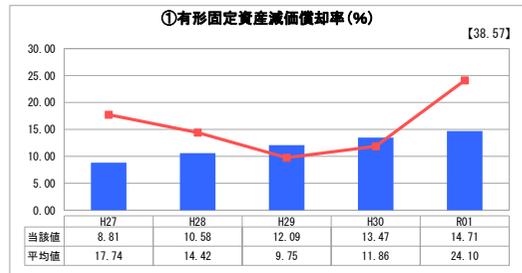
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

累積欠損金が無く、経常収支比率が100%を超えているので経営状況は良好といえる。
 しかし、経費回収率をみると、汚水処理に係る費用を下水道使用料で86%しか賄えておらず、残りは主に一般会計からの繰入金に頼っているのが現状である。
 しかし、経費回収率は年々増加傾向にあり、逆に汚水処理原価は減少しているため、有収水量や下水道使用料が増加していることがうかがえる。
 下水道自体が整備途中であるため、今後も整備を進めていけば使用料収入のさらなる増加も見込め、一般会計からの繰入金を削減することができる。
 また企業債残高は、下水道整備途中であるため大きく減少することは考えにくい、使用料収入が増加傾向にあるので徐々に減少すると考えられる。

2. 老朽化の状況について

平成16年から供用開始しており、管渠等はまだまだ新しく老朽化していない。

全体総括

里庄町は、平成16年に供用開始しており、下水道整備予定区域の約63%の整備が終わったばかりで、下水道普及率も65%であるため事業費も起債や一般会計からの繰入金に依存している。
 しかし、今後も管渠整備を進めることにより、有収水量や使用料収入の増加が見込めるため、更なる経費節減に努めると共に、水洗化率向上につながるよう引き続き住民に対して、下水道への接続をお願いしていきたい。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。